

2024年11月

No.24-105a(全)※5

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査委託先より検査内容変更の連絡がありましたので、取り急ぎご案内する次第です。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

■対象項目/変更内容

- 別掲の一覧表をご参照ください。

■変更期日

- 2024年12月5日(木)受付日分より

■検査内容変更一覧

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧	備考
44	2517	アミラーゼアイソザイム〈血清〉	検体量 (mL)	血清 0.5	血清 0.3	適切な検体量への変更
108	3028	HBs 抗原(HQ)	安定性 保存方法	21 日 冷	21 日 凍	保存温度の変更、 保存(安定性日数表記)、総合検査案内備考欄の変更、重複依頼禁止の追加
			総合検査案内備考欄	検体他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	検体本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	
114	5914	アデノウイルス DNA 定性	検査方法	PCR (リアルタイム PCR)	PCR	検出感度の良い試薬への変更、検査方法、基準値、所要日数、保存(安定性日数表記)、総合検査案内備考欄の変更 (※詳細については、5 ページをご参照ください)
			基準値 (単位)	検出せず	陰性	
			所要日数 (日)	3~10	4~11	
			安定性 保存方法	部分尿:28 日凍 結膜ぬぐい液、糞便: (※記載を削除します) 凍	部分尿、糞便:1 ヶ月凍 結膜ぬぐい液:3 ヶ月凍	
			報告範囲	変更はありません	なし	
			報告桁数	変更はありません	なし	
			総合検査案内備考欄	検体他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	検体結膜ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を 1mL の PBS または生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ (ARR) に入れ、そのまま凍結保存してください。 検体*1,2 報告*3	
			JLAC10 コード	部分尿: 5F150-1440-001 -862 糞便: 5F150-1440-015 -862 結膜ぬぐい液: 5F150-1440-066 -862	部分尿: 5F150-1440-001 -851 糞便: 5F150-1440-015 -851 結膜ぬぐい液: 5F150-1440-066 -851	

頁	項目コード	検査項目名	変更内容	新	旧	備考
157	6073 ～ 6082	薬剤によるリンパ球刺激検査 (DLST)	依 頼 書	覚醒剤原料 覚醒剤取締法	覚せい剤(原料) 覚せい剤取締法	適切な表記へ変更 (各種ガイドラインの表記)
			総合検査案内欄外備考 ※薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST) の留意点 7.8. の文章	「覚醒剤取締法」別表	「覚醒剤取締法」第三章 および別表	
				覚醒剤原料	覚せい剤	
166	—	KIT シーケンス解析 (白血病)	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 7	適切な検体量への変更
			容器	14	09	適切な容器への変更
166	1475 1470	FLT3 変異解析 ITD/TKD 〈ヘパリン加血液〉 〈髄液〉	項目名	AML FLT3 変異解析 (FLT3阻害剤)	FLT3 変異解析 ITD/TKD	再委託先の変更
			再委託先	LSI メディエンス →1	エスアールエル →5	
			JLAC10 コード	〈ヘパリン加血液〉: 8C071-9951-019 -955 〈髄液〉: 8C071-9951-046 -955	〈ヘパリン加血液〉: 8C071-0000-019 -955 〈髄液〉: 8C071-0000-046 -955	
			容器 検体量	〈ヘパリン加血液〉 容器:10 検体量:9 〈髄液〉 容器:22 検体量:1	〈ヘパリン加血液〉 容器:10 検体量:3 〈髄液〉 容器:HOO 検体量:1	
			安定性	なし	7日	
			基準値 (単位)	検出せず	陰性	
			備考欄	項目コンパニオン診断薬を用いた検査です(キザルチニブ、ギルテリチニブ)。 報告 ITD・TKDそれぞれの判定とSR値(野生型と変異型のシグナル比)を報告します。 項目*1 検体*2 →1 (上記変更に伴い 168 頁下-1 の表を削除します。)	検体 EDTA-2Na 入り採血管(容器番号 14)も検査可。 項目168 頁下-1 参照: FLT3 変異解析 ITD/TKD の判定基準 検体必ず専用検体としてご提出ください(他項目との重複依頼は避けてください)。 検体凍結保存は避けてください。 検体*2 →5	
169	—	MPN 遺伝子変異解析	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 5	適切な検体量への変更
170	—	キメリズム解析 移植前ドナー [PCR]	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 7	適切な検体量への変更
			容器	14	09	適切な容器への変更

頁	項目 コード	検査項目名	変更内容	新	旧	備考
179	1231	アンドロゲンレセプター遺伝子 CAG 反復配列解析(球脊髄性筋萎縮症)	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 5	適切な検体量への変更
183	—	SNRPN 遺伝子解析 [メチレーション PCR] (プラダー・ウィリ症候群 アンジェルマン症候群)	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 5	適切な検体量への変更
183	4991	ジストロフィン遺伝子解析 (デュシェンヌ型筋ジストロフィー ベッカー型筋ジストロフィー)	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 7	適切な検体量への変更
193			容器	14	09	適切な容器への変更
—	1952	コレステロール分画	検体量 (mL)	血清 0.5	血清 0.2	適切な検体量への変更
—	8371	HTT 遺伝子 CAG 反復配列解析 (ハンチントン病)	検体量 (mL)	EDTA 加血液 2	EDTA 加血液 5	適切な検体量への変更

● アデノウイルス DNA 定性

検出感度の良い試薬へ変更いたします。これに伴い、検査方法、基準値、所要日数、保存(安定性日数表記)、総合検査案内備考欄を変更させていただきます。

▼現法と新法の比較

変更内容	新	現
項目コード	変更はありません	5914
検査方法	PCR(リアルタイム PCR)	PCR
基準値(単位)	部分尿、結膜ぬぐい液、糞便: 検出せず(なし)	結膜ぬぐい液、部分尿、糞便: 陰性(なし)
所要日数(日)	3~10	4~11
保存(安定性)	部分尿:凍結(28日) 結膜ぬぐい液、糞便:凍結 (※記載を削除します)	結膜ぬぐい液:凍結(3ヶ月) 部分尿、糞便:凍結(1ヶ月)
報告範囲	変更はありません	なし
報告桁数	変更はありません	なし
総合検査案内備考欄及び下欄	他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	結膜ぬぐい液:患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ(ARR)に入れ、そのまま凍結保存してください。 検体*1,2 報告*3
JLAC10コード	部分尿:5F150-1440-001-862 結膜ぬぐい液:5F150-1440-066-862 糞便:5F150-1440-015-862	部分尿:5F150-1440-001-851 結膜ぬぐい液:5F150-1440-066-851 糞便:5F150-1440-015-851

● 相関一致表

		現法	
		陽性	陰性
新法	陽性	12	3
	陰性	0	15

(n=30)

陽性一致率: 100.0% (12/12)
陰性一致率: 83.3% (15/18)
全体一致率: 90.0% (27/30)

■ 参考文献

(検査方法参考文献) Lu X, et al: J Clin Microbiol 51(4):1089~1093, 2013.